

F・メンデルスゾーン作曲
オラトリオ「パウロ」 作品 36
歌詞字幕付

Paulus

合唱：

東京合唱団

共演：

学習院 OB 混声合唱団
児童合唱団 ムーサ

2008年9月6日(土)

1:30pm 開場 2:00pm 開演

紀尾井ホール

助成：

財団法人
三菱 UFJ 信託地域文化財団

Paulus

ご挨拶

本日はみなさまご多忙の中、私ども東京合唱団の演奏会にご来場いただきましてまことにありがとうございます。

本日の演奏会ではメンデルスゾーンのオラトリオ「パウロ」を演奏いたします。「パウロ」は「エリア」とならんでメンデルスゾーンの2大オラトリオの一つですが、日本では今までは比較的演奏機会が少なかったように思われます。しかし「目からうろこが落ちる」の語源となった逸話や、有名なコラールが含まれているなど、親しみのある一面も持っております。今回は児童合唱団ムーサに共演をお願いしました。前半のクライマックスの「主の声」のところに児童合唱の清らかな声を起用いたしましたが、お楽しみいただけるのではないかと考えております。

時あたかもローマ教皇ベネディクト十六世は、パウロ生誕 2000 年を記念して今年から来年にかけての 1 年間を「パウロ年」と決めました。この記念すべき年にオラトリオ「パウロ」を演奏する機会を持てることは大変意義深いことと思っております。

秋の気配漂う紀尾井の丘に、今年もまたみなさまをお迎えすることができましてこのうえない喜びでございます。どうかごゆっくりと午後のひと時をお楽しみください。

来年は当団音楽監督・指揮者の前田幸康先生の父君である故前田幸市郎先生の没後 20 年に当たります。これを記念して来年 9 月 13 日(日)の演奏会では幸市郎先生に縁の深いフォーレ「レクイエム」およびシューベルト「ミサ曲第 2 番」他を演奏する予定です。来年も引き続きご来聴いただけるようお願い申し上げますとともに、当団の活動にご関心を持たれた方々、また幸市郎先生にご縁のあった方々には是非当団に参加されて一緒に歌っていただけるようお待ち申し上げます。

最後になりましたが、本日の演奏会の開催にあたり「前田幸康サポータークラブ」ならびに「学習院 O B 混声合唱団」より多大なご支援、ご協力をいただきました。また「財団法人 三菱 U F J 信託地域文化財団」からは暖かい助成をいただきました。本紙面をかりまして厚く御礼申し上げます。

東京合唱団団長 宮本昭彦

フェーリクス・メンデルスゾーン

Felix Mendelssohn Bartholdy

パウロ

PAULUS Op.36

第一部

1. 序曲 ～ 22. 合唱

休憩

第二部

23. 合唱 ～ 45. 合唱

独 唱 ○ソプラノ 佐竹 由美
○テナー 横山 和彦
○バス 近野 賢一

○ソプラノ 大塚 恵美子 佐藤 悠子
○アルト 永澤 麻衣子
○テナー 神林 紘一
○バス 杉村 俊哉

オルガン ○草間 美也子

指 揮 ○前田幸康

合 唱 ○東京合唱団

学習院 OB 混声合唱団
児童合唱団 ムーサ

管 弦 楽 ○KMG 管弦楽団



Yukiyasu Maeda Director & Conductor

前田 幸康

(音楽監督・指揮)

国立音楽大学卒業。チェロを故小沢弘、故黒沼俊夫、小野崎純の各氏に師事。N響、日フィル等のオーケストラでフリーのチェリストとして活躍し、東京ゾリスTEN等の室内楽にも力を注ぐ。現神奈川フィルハーモニー交響楽団の前身であるロリエ管弦楽団を故金子登、故前田幸市郎と設立し、初代チェロ第一首席奏者を務める。1973年に渡欧し、Prof.マルティン・オースタータークに師事。1974年1月よりフライブルク市立交響楽団のメンバーとなり、現在に至る。故前田幸市郎から指揮の指導を受け、1990年以来、日本において指揮活動をしている。W.A.モーツァルト「レクイエム」、J.G.L.モーツァルト「ミサソレムニス」(日本初演)、グラウンのオラトリオ「イエスの死」(日本初演)、ブラームス「ドイツレクイエム」、J.S.バッハ「ミサ曲口短調」「ヨハネ受難曲」、フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」等を東京合唱団の指揮者として演奏する。1985年よりプロアルテ・カンマー・オーケストラ・フライブルクの首席チェロを務めた。同年にまたフライブルク市よりカンマームジーカーの称号を贈られ、1989年には外国人としては最高の功労賞メダルを同市より授与された。



Naomi Satake Soprano

佐竹 由美

(ソプラノ)

東京芸術大学及び同大学院博士課程修了。博士号を取得。学部を首席で卒業、皇居桃華楽堂にて御前演奏の栄を授かる。ロータリー国際親善留学生としてミラノにて研鑽を積む。第53回日本音楽コンクール第2位、ノバラ市国際声楽コンクール第2位入賞、ライブツィヒ第8回バッハ国際コンクール第4位入賞。バッハ「マタイ受難曲」モーツァルト「レクイエム」「ハ短調ミサ」ハイドン「天地創造」等、宗教作品のソリストの第1人者として活躍、その確かな技術に支えられた透明感のある美声と洗練された歌唱が最大の魅力で常に高い評価を得ている。現代作品においても作曲家諸氏から絶大なる信頼を得て数多くの公演に関わる他、英米歌曲の研究・演奏を行っている。オペラでは東京室内歌劇場、日生劇場、二期会などにおいて主要キャストとして出演、好評を博す。これらの演奏活動に対し、99年よんでん文化振興財団芸術文化奨励賞を受賞。国立音楽大学および東京芸術大学非常勤講師。二期会会員。



Kazuhiko YOKOYAMA Tenor

横山 和彦

(テナー)

東京芸術大学音楽学部声楽科卒、同大学院独唱科終了。渡辺高之助、高橋修一の両氏に師事。在学中、「芸大メサイア」、芸大定期ヴェルディ「レクイエム」にソリストとして出演。卒業後、宗教曲のソリストとして多数の作品に出演。主な作品としてバッハ「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」、多数のカンタータ、モーツァルト「レクイエム」、「ハ短調ミサ」、メンデルスゾーン「聖パウロ」、「エリア」等。またヘンデルの「メサイヤ」、ベートーヴェン「第九」のソリストは多数行っている。オペラでは、モーツァルト「魔笛」のタミーノ、ドニゼッティ「愛の妙薬」のネモリーノ等、主役で出演した作品をはじめとし、貴重なバイプレーヤーとして多数の作品に出演。1992年文部省の在外研修員としてヴィーンに留学し、ヴィーン国立音楽大学オラトリオ、リード科教授のW.モーア氏の下で、研鑽を積む。留学中、ヴィーンにおいてリサイタルを開催し、成功を収める。帰国後、1993、1995、1997、1999年に行ったリードアーベンドはいずれも好評を博した。グループナーベ、オペラクリエーション・イン・青山、日本演奏連盟各会員。東京学芸大学教授。



Kenichi KONNO Baritone

近野 賢一

(バリトン)

北海道出身。新潟大学卒業、京都市立芸術大学大学院修了。これまでに、箕輪久夫、宇野徹哉、福島明也の各氏に師事、リート解釈を岡原慎也氏に師事。ドイツ・カム国際夏期講習にて、D.ヘンシェル、古寄靖子、H.ドイチュ他のレッスンを受講。京都にてE.アメリンク&J.デムス歌曲講座を受講。サイトウキネンフェスティバル松本にて、白井光子氏のクラスを受講。シュトゥットガルトのバッハアカデミー講習会、フライブルクでのW.リーガー歌曲講座を受講。友愛リートコンクール第三位、併せて日本歌曲賞受賞。大曲新人音楽祭コンクール奨励賞受賞。京都でのリサイタルに対して青山音楽賞新人賞を受賞。青山財団から奨学金を授与され現在フライブルク音大に在籍。声楽をM.ゴリツキ教授、リート解釈をH.P.ミュラー教授に師事。フライブルクにて独日協会フライブルク松山主催「冬の旅」「シューマン歌曲の夕べ」などのリサイタルを行っている。



Miyako KUSAMA Organ

草間 美也子

(オルガン)

フェリス女学院短期大学音楽科卒業。同専攻科修了。オルガンを奥田耕天、ピアノを大島正泰、小林道夫、岸川基彦の各氏に師事。1970年万博記念オルガンコンクールで最高位入賞。その後ドイツのケルンに留学、ミヒャエル・シュナイダー氏に師事。帰国後、NHK交響楽団、新日フィル、読売日響などのオーケストラと共演多数。サヴァリッシュ、マズア、プロムシュテット、アルブレヒトなどの指揮者のもと、宗教曲を主に多くの演奏会に出演。海外でのコンサートも多く、ケルン、ベルリン、テュービンゲン、ライブツィヒなどで独奏・伴奏を行なう。現在、恵泉女学園オルガンニスト、銀座教会音楽主任。

KMG 管弦楽団

東京合唱団の創設者、故前田幸市郎氏により1982年にKMG合奏団として組織された。東京近郊の第一線クラスのソリストにより結成され、名人芸的なアンサンブルを醸し出す。特にバロック音楽では高い水準を維持している。

児童合唱団ムーサ

‘01年西東京市ひばりヶ丘中心で“うた”の大好きな子供6人のメンバーで始めた児童合唱団。05年・08年ジョン・ラッター「こどもたちのミサ」、06年7月「志賀高原合唱祭」、07年3月「マタイ受難曲」等に出演。和気あいあいとした雰囲気の中にも、豊かな音楽作りを目標としています。

歴史背景

紀元(AD)30年、「神の愛」という新しい福音を説いた「人の子」イエス・キリストは、エルサレムのゴルゴダの丘で十字架刑に処され死んだ。その3日後キリストは復活し、すべての旧約の預言は実現されるが、ユダヤ社会を初め多くの人たちは救世主キリストを信じず、むしろキリスト教信者を迫害した。それでも蒔かれた種は芽吹き、次第に広がっていった。イエスが死んで復活したとき、サウロ(後のパウロ)は20代の血気盛んな年頃であった。生まれはタルソス(現在のトルコ内)で、豊かなユダヤ人の家に生まれたといわれている。サウロは15歳のころユダヤ教勉強のためエルサレムにのぼり、著名な律法学者であったガマリエルのもとに学んだ。そのサウロが当時の伝統的なユダヤ社会から見て、異端と考えられたキリスト教に強い敵意を持ったことは十分考えられる。

エルサレムにキリストの教えを熱心に説く男がいた。最初の殉教者となるステファノである。ユダヤの長老たちが「ステファノは神を冒瀆した。石打ち刑に値する」と決めつけたので、群衆はステファノに石を投げつけて殺してしまふ。これを監督したのがサウロであった。サウロはキリスト教徒をさらに迫害するためにダマスコ(今のシリアのダマスカス)への旅に出る。ダマスコの郊外まで来たときに、突然サウロは光に打たれ、地に打ち倒され、主の声を聞く。「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」「主よ、あなたはどなたですか」「わたしはあなたが迫害しているナザレのイエスである」「主よ、どうしたらよいのでしょうか」「立ち上がってダマスコへ行け。しなければならないことはそこで知らされる」

サウロは目が見えなくなり、手を引かれてダマスコに入るが、3日3晩何も食べず飲まなかった。そこに神の啓示を受けたキリストの弟子アナニアがやってきて、サウロの上に手を置くと、「目から鱗が落ちた」ように再び目が見えるようになり、洗礼を受けた。現在でも良く用いられるこの表現はサウロの回心の出来事から来ている。サウロはパウロに改名する。(ここまでが第Ⅰ部)

パウロは回心してからはどんな迫害を受けても、どんな困難に会っても二度と信念を変えることがなかった。彼が選んだ道は非常に困難な伝道の道であった。彼はまずバルナバと第1回の旅に出る。パウロたちが説いたのは、イエス・キリストの愛の福音である。ユダヤ・コミュニティの受けは良くなく、むしろ敵意を持たれた。パウロとバルナバは次第に異邦人の改宗のほうに力を注ぐ。パウロはリストラという町で、生まれつき足萎えの異邦人を「立て、歩け」と命じて、歩けるようにした。異邦人たちはこの奇跡を見て、パウロたちを神(彼らの多神教の神)と崇めようとした。パウロは彼らの信仰は誤っていると厳しく論じた。パウロに反感を持つユダヤ人たちは群衆をそそのかし、彼を石打ちの刑にしてしまふ。

しかし、石打ち刑で死んだと思われ町の外に捨てられたパウロは、奇跡的に生き延びた。そして「キリストはわたしを選んだ、その教えを異邦人含め広く伝えるために」と確信したのである。パウロの使命感は第2回と第3回の小アジアからギリシャへの大伝道旅行につながった。第2回の旅は3年、第3回5年にも亘った。最後に立ち寄ったのがミレトスという港町であった。パウロはエフェソから教会の主だった人々を呼んで、最後の説教を行う。その時に彼はエルサレムに上れば、二度と皆には会えないことを知っていた。人々はエルサレム行きの中止を懇願する。しかしパウロは今や「死を覚悟して」最後の仕事に取り組むのである。オラトリオ「パウロ」はここで終わっている。

エルサレムに上ったパウロは、ユダヤ人の訴えによりローマ兵に捕らえられ、最期にはローマでペテロと共に殉教する。このときの皇帝がネロであった。ユダヤ律法の徒サウロが使命を全うして殉教し、キリストの大使徒・大伝道師「聖パウロ」になったのである。ペテロの殉教の地バチカンの丘には聖ペテロ大聖堂が、そしてパウロ殉教の地にはトレ・フォンターネ(三つの泉)の教会が建てられている。

ローマ法王ベネディクト16世は、2008年6月28日から1年間を「パウロの年」と定めた。パウロの生誕がAD8年ごろとされており、ちょうど生誕2000年紀(Bi-millennial year)という記念すべき年になるからである。ちなみに6月28日はパウロが殉教した日と伝えられている。

作曲家　フェーリクス・メンデルスゾーン (Felix Mendelssohn Bartholdy)

フェーリクス・メンデルスゾーン(1809-1847)は、ハンブルグの裕福なユダヤ人家庭に生まれた。彼が7歳のときメンデルスゾーン一家はルーテル派に改宗した。そのメンデルスゾーンが、ユダヤ教から回心してキリストの使徒となった聖パウロに深い共感を寄せたのであろう。それだけにこのオラトリオは単なるオラトリオを超えて、オペラ的でありlyrical dramaである。

「パウロ」のテキスト(libretto)は、メンデルスゾーンが自ら作成したものである。もちろん新約および旧約聖書から多くの引用が行われているが、全体の構成はあくまで彼独自のものである。彼はバチカン訪問の際、ラファエルの「聖パウロ」の絵からインスピレーションを得たといわれている。初演は1836年5月22日デュッセルドルフで、大成功だったと伝えられる。その後メンデルスゾーンはライプツヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者に請われて就任、

同楽団の発展に尽くした。また、初めての音楽学校の設立などにも貢献している(滝廉太郎はこの学校で学んだ)。「パウロ」から10年後、2つ目のオラトリオ「エリア」が作曲されている。メンデルスゾーンはその翌年の1847年11月ライプツヒで亡くなった。

オラトリオ「パウロ」(Paulus、Op. 36)

このオラトリオは、ソロ・パート(ソプラノ、アルト、テノール、バス)、混声合唱と児童合唱による合唱とコラールで構成されている。サウロ/パウロはバス、語り(レツィタティーフ)はソプラノとテノールの各ソリストが歌う。児童合唱は14.の「主の声」と16.のコラール、それと36.の合唱「私たちは皆、唯一の神を信じます」のコラール部を歌う。第Ⅰ部はオーケストラによる美しく力強い序曲で始まり、合唱とコラールで主の栄光が賛美される。同時に主の言葉がいまだ届かない異邦人が多いことも語られる。イエス・キリストの教えを熱心に説くステファノが登場し(4.)、ユダヤ教長老たちは民衆を扇動して、彼を石打ち刑にしてしまふ(8. Steiniget ihn!)。サウロ(後のパウロ)はステファノの殺害に賛成しただけでなく、さらにキリスト教徒を迫害しようとしてダマスコへの旅に出る。ところがダマスコの郊外で、光に打たれ失明し、天から「目覚めよ(Wachet auf!)」の声を聞く(14.から18.)。そのあと「目から鱗落ちて」回心し、洗礼を受ける(19.から21.)。

第Ⅱ部では回心したサウロがパウロに改名し、キリスト教布教のため命がけの伝道旅行を行う。リストラの町で、パウロは生まれつき足が萎えた男を奇跡的に治した(32.)。おかげで異教の神に奉られそうになり、それを糺そうとしてかえって民衆の反感を買う。ユダヤ教徒は民衆を扇動しパウロを石打ちの刑にする(38.)。しかしパウロは奇跡的に生き残り、「主は常にそばにいる」という固い信念で伝道旅行を続ける。最期に周りの説得を振り切り、死を覚悟してエルサレムにのぼるため船出する(41.と42.)。合唱がパウロの勇氣と信仰の深さを賛美し、主の偉大さを讃えて幕となる(44.と45.)。

*本解説は日本聖書協会「聖書 新共同訳」および杉村俊哉氏の訳を参照・引用した。　また、國井神父のご指導を受けた。

《日本語訳歌詞》

第一部

1. 序曲 2. 合唱

主よ！　あなたがこそが神であり、
天と地と海とを創られた方！
異邦人たちは、主よ、あなたと、
あなたのキリストに対して逆らいます。
今こそ、主よ、彼らの脅しに目を留め、
そして、あなたの僕(しもべ)たちが、大きな喜びをもって、
あなたの御言葉を語ることができるように。
(使　4：24、26、29)

3.　コラール
いと高きところ、神にのみ栄光がありますように
神の恵みに感謝がありますように。
今、そしてこれからは決して、
どんな災いもわたしたちにふりかからないのですから。
神の力は全く計り知れず、御心だけが為されるのです。
幸いでありますように！
主にあってわたしたちが幸いでありますように！

4.　レツィタティーフと二重唱
ソプラノ
信じた人々の群れは心も思いも一つにしていた。

さて、ステファノは信仰と力に満ち、
人々の間ですばらしい不思議な業を行っていた。
それで律法学者たちも、彼が語る知恵と“霊”によって語る
ので、対抗できなかった。
そこで、彼らは数人の男たちを送り込み、こう言わせた。
バスⅠ&Ⅱ (偽証人たち)
「わたしたちは、この男が、この聖なる場所と
　律法に対して冒瀆する言葉を吐くのを聞いた。」

ソプラノ
そして民衆と長老たちを扇動し、
ステファノを襲って捕らえ、
最高法院に連れていって、言った。(使　4：32、6：8～13)

5. 合唱
民衆
「この男がモーセと神に対する冒瀆の言葉を語るのを
やめようとしなさい。
わたしたちは、厳しく命じておいたではないか？
あの者の名によって教えてはならないと。
だというのに、お前たちは、エルサレムを自分達の教え
で満たしてしまった。
わたしたちは彼がこう言うのを聞いたのです。
『ナザレのイエスは、この場所を打ち壊し、
モーセがわたしたちに伝えた習慣を変えるだろう。』と。
(使　6：11、12、14)

6. レツィタティーフと合唱

ソプラノ

最高法院の席に着いていた者は皆、彼（ステファノ）の顔に目を向けたが、その顔はさながら天使のように見えた。（使 6：15）大司祭が「訴えのとおりか？」と尋ねた。そこで、ステファノは言った。（使 7：1、2）

テノール（ステファノ）

「愛すべき兄弟であり父である皆さん、聞いてください。栄光の神がわたしたちの父祖に現れ、あらゆる苦難から民を助け出し、救いを与えました。しかし、彼らはそれを悟らなかったのです。神がモーセをエジプトに遣わされたのは、彼らの苦しみ
彼らの嘆きを聞いたからです。
しかし彼らはモーセを拒み、従おうとせず、突き放し、異教の神々にいけにえを捧げたのです。
ソロモンは神のために家を建てました。
しかし、いと高き方は人の手で造られた神殿にはお住みになりませんでした。
天が神の王座であり、地が神の足台なのです。
全てのもので、神の手で創られなかったものがあるでしょうか？ 頑なな人たちよ！
あなたがたいつも聖霊に逆らっています！
まるであなたがたの先祖と同じです。
あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか？ 彼らは、正しい方が来られる未来を預言した人々を、殺してしまいました。あなたがたは、天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守らなかったのです。」（使 7：2、10、25、34、35、39、41、47～53）

民衆

「その男を殺してしまえ！
彼は神を冒瀆した。
神を冒瀆するものは死なねばならない！」
（使 21：36／レビ 24：16）

テノール（ステファノ）

「見よ、わたしには、天が開き、人の子が神の右に立っておられるのが見えます！」（使 7：56）

7. アリア

ソプラノ

エルサレムよ！おまえは預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ。
わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。
だが、お前たちは応じようとしなかった。
エルサレム！ エルサレムよ！（マタイ 23：37）

8. レツィタティーフと合唱

テノール

しかし、人々は彼目がけて一斉に襲いかかり、町の外に引きずり出して、石で打ち、大声で叫んだ。

民衆

「彼を石で打ち殺せ！彼は神を冒瀆した。
神を冒瀆した者は死なねばならない！」
（使 7：57～58／レビ 24：16）

9. レツィタティーフとコラール

テノール

そして人々は彼を石で打った。
ステファノはひざまずいて、大声で叫んだ。
「主よ、この罪を彼らに負わせないでください！
主イエスよ、わたしの霊をお受けください！」
こう言って、彼は眠りについた。（使 7：58～59）

コラール

あなたに、主よ、わたしはこの身を委ねます。

わたしはあなたのものだからです。
ただあなたがわたしの命であり、
死もわたしにとって益となるでしょう。
わたしはあなたに生き、あなたに死にます。
あなたがわたしのものでありさえすれば、
わたしは満ち足りているのです。

10. レツィタティーフ

ソプラノ

証人たちは自分達の着ている物を、
サウロという若者の足もとに置いた。
サウロはステファノの殺害に賛成していた。
さて、信仰深い人々はステファノを葬り、
彼のことを思って大変悲しんだ。（使 7：58、 8：1、2）

11. 合唱

「見よ、わたしたちは堪え忍ぶ人々を幸いと誉め讃えます。たとえ肉体は死んでも、魂は生きるのですから。」
（ヤコブ 1：12）

12. レツィタティーフとアリア

テノール

さて、サウロは教会を破壊し、
弟子たちに対して脅迫と殺害をもって荒れ狂い、
彼らを罵って言った。（使 8：3、9：1）

バス（サウロ＝パウロ）

「彼らを根絶やしにし給え、万軍の主よ、
炎で焼き払われる刈株のように！
彼らは悟ろうとしません、
あなたこそが主と名乗られる唯一の方であることを、
全世界の至高者であることを。あなたの怒りを彼らに
向かわせ給え、彼らは黙るべきなのですから！」
（詩 59：14、 83：19、16）

13. レツィタティーフとアリオージ

アルト

そして、サウロは、
男女を問わず縛り上げ、エルサレムへ連行する権限と命令
を大司祭から受け、
人々の群れと共にダマスコへ向かった。

しかし主は御自分の者たちをお忘れにならず、
その子らのことを心に留められました。
主の御前に身を低くしなさい、高慢の者たちよ、
主は近くにおられるのですから！
（使 9：2／2テモテ 2：19）

14. レツィタティーフと合唱

テノール

そしてサウロが道を急いで、
ダマスコに近づいたとき、
突然、天からの光が彼の周りを照らした。
彼は地に倒れ、
自分に語りかける声を聞いた。

主の声

「サウロ！ サウロ！ なぜ、わたしを迫害するのか？」

テノール

そして彼は言った。

バス（サウロ＝パウロ）

「主よ、あなたはどなたですか？」

テノール

主は彼に言われた。

主の声

「わたしは、あなたが迫害しているナザレのイエスである！」
テノール
彼は震え、おののいて言った。

バス（サウロ＝パウロ）

「主よ、わたしが何をなすべきとお望みでしょうか？」

テノール

主は彼に言った。

主の声

「起きて町に入れ、
そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。」
（使 9：3～6）

15. 合唱

起きよ！ 光を放て！
あなたの光は昇り、
主の栄光はあなたの上に輝く。
さあ見よ、闇は地を覆い、
暗黒が国々を包んでいる。
しかし、あなたの上には主が輝き出て、
主の栄光があなたの上に現れるのだ。（イザヤ 60：1、2）

16. コラール

目覚めよ！ と、わたしたちに呼びかける声がある
物見の者たちの声が、いと高き望楼から。
目覚めよ、エルサレムの町よ！ と。
目覚めよ、花婿がやって来る！
起きよ、灯をとれ！
ハレルヤ！
永遠に向けて備えよ、
おまえたちは、彼を迎えるのだから！

17. レツィタティーフ

テノール

サウロに同行していた人々は、
立ちすくんでいた。
声は聞こえても、だれの姿も見えなかったからである。
サウロは地面から起き上がり、
目を開けたが、何も見えなかった。
そこで人々は彼の手を引いて、
ダマスコへ連れて行った。
彼は三日間、目が見えず、
食べも飲みもしなかった。（使 9：7～9）

18. アリア

バス（サウロ＝パウロ）

「神よ、その慈しみをもって、わたしを憐れんでください、
そしてわたしの罪を拭い去ってください、
その大いなる憐れみをもって。
御前からわたしを退けず、
あなたの聖なる霊を取り上げないでください。
怖れ、打ち碎かれた心を、神であるあなたよ、侮らないでください。
わたしはあなたに背いている人たちにあなたの道を教え
ましょう、罪人があなたに立ち帰るように！
主よ、わたしの唇を開いてください！
この口があなたの誉れを伝えられるように。
そしてわたしの罪を拭い去ってください、
その大いなる憐れみをもって。

主よ、わたしを退けないでください！」
（詩 51：3、13、19、15、17）

19. レツィタティーフ

テノール

さて、ダマスコにアナニアという名の弟子がいた。
彼に主は言った。

主の声

「アナニアよ！ 立ちなさい。タルソのサウロという者を
尋ねなさい。さあ見よ、彼は祈っている！
この者はわたしの選んだ器です。
わたしは彼に示そう、わたしの名のためにどんなに苦しま
なくてはならないかを。」（使 9：10、11、15、16）

20. 合唱付アリア

バス（サウロ＝パウロ）

「わたしはあなたに感謝します、
主よ、わたしの神よ、心を尽くして永遠に。
あなたの慈しみは大きくわたしにおよび、わたしの魂を
深い地獄から救い出してくださいました。」
（詩 86：12、13）

合唱

主はあらゆる者の顔から涙を拭い去ってくださるでしょう。
主がそのように語られたのですから。（イザヤ 25：8）

21. レツィタティーフ

ソプラノ

そこで、アナニアは出かけていってその家へ入り、
サウロの上に手を置いて言った。

テノール（アナニア）

「愛すべき兄弟サウロよ、
主がわたしをお遣わしになったのです、
あなたがここへ来る途中に現れてくださった方が。
あなたが再び見えるようになり、
聖霊で満たされるようにと。」

ソプラノ

すると、たちまち目からうるこのようなものが落ち、
サウロは再び目が見えるようになった。
そして起き上がり、洗礼を受けた。
そしてすぐに会堂でイエスの事を宣べ伝え、
「この人こそキリスト（神の子）である」と説きはじめた。
（使 9：17～20、22）

22. 合唱

ああ 神の叡智と知識は、
何と豊かで深いことでしょう！
神の裁きは全く想像も及ばず、
神の道は何と計り知れないものでしょう！

栄光が神に永遠にありますように！ アーメン！
（ローマ 11：33、36）

第二部

23. 合唱

全世界は、今や、主と、
そのキリストのものとなりました。
すべての異邦人がやってきて、
あなたの前にひれ伏すでしょう。
あなたの栄光が明らかになったからです。
（黙 11：15、15：4）

**24. レツィタティーフ
ソプラノ**
そうしてパウロは教会に行き、
イエスの名を自由に説くようになっていた。
すると聖霊が告げた。
「バルナバとパウロをわたしのために送り出さない。
わたしが決めておいた仕事に当たらせるためである。」

そこで彼らは断食して祈り、
二人の上に手を置いて出発させた。(使 9：28、13：2、3)

**25. 二重唱
テノール (バルナバ)、バス (パウロ)**
今こそ、わたしたちはキリストの代わりの使者となりました。
神がわたしたちをを通して戒められるのです。
(2コリ 5：20)

26. 合唱
平和を伝える使者は、
何と麗しいことでしょう！
その声は全地に響きわたり、
その言葉は全世界に及びます。(ローマ 10：15、18)

**27. レツィタティーフとアリオーゾ
ソプラノ**
聖霊によって送り出された二人は、
そこから船出し、
喜びを持って、神の御言葉を宣べ伝えた。

わたしたちに主の慈しみをとこしえに歌わせてください！
主の真理を伝えさせてください！ とこしえに！
(使 13：4、5 詩 89：2)

**28. レツィタティーフと合唱
テノール**
しかしユダヤ人たちは
パウロの話の間こうと集まった群衆を見て、
ひどく妬み、
パウロの言った事に反対して、罵って言った。(使 13：45)

民衆
「主はこう言われている。
『わたしが主である。わたしの他に救い主はいない』
と。」(イザヤ 43：11)
テノール
そして彼らはパウロをつけ狙い、
彼を殺す謀議をはかって、
口々に言い合った。(使 9：23、24)

29. 合唱とコラール
「あれは、エルサレムで、
“あの者の名を呼ぶ者たち”を皆、妨害していた男ではな
かったか？ 偽り者はすべて黙らせろ！
彼を殺してしまえ！」

**コラール
ソロ (四重唱)**
おお イエス・キリスト、真の光りよ、
あなたを知らない者たちを照らし、
彼らをあなたの光りの炉へと導いてください、
彼らの魂も幸いとなりますように。

合唱
目の見えない者たちを照らしてください、
わたしたちから分かれた者たちを連れ戻してください、

散り散りになった者たちを呼び集めてください。
疑い深くなっている者たちを、堅くしてください！

**30. レツィタティーフ
テノール**
パウロとバルナバは自由に、公然と語った。

バス (パウロ)
「あなたがたに、まず神の言葉は語られるはずでした。
だが、あなたがたはそれを拒み、自分自身を永遠の命を
受けるに値しない者にしています。見なさい、わたしたち
は異邦人の方へ向かいます」(使 13：46)

**31. 二重唱
テノール (バルナバ)、(パウロ)**
「主はわたしたちにこう命じておられるのです。
『わたしは、あなたを異邦人の光と定めた、地の果てまで
も救いをもたらすために』
主の御名を呼ぶ者は誰でも幸いなのです。」

**32. レツィタティーフ
ソプラノ**
リストラの男で、
足が不自由で一歩も歩いた事が無い者がいた。
その男が、パウロの話すのを聞いていた。
パウロは彼を見つめ、大きな声で言った。
「立ちなさい！ 自分の足でまっすぐに！」
すると、彼は躍り上がって歩き出し、
そして神を讃えた。
異邦人たちはパウロの行ったことを見て、
声を張り上げて言い合った。(使 14：8、9、11)

**33. 合唱
異邦人たち**
「神々が人間の姿をとって、
わたしたちのところに、お降りになった！」(使 14：11)

**34. レツィタティーフ
ソプラノ**
そしてバルナバを「ゼウス」と呼び、
パウロを「ヘルメス」と呼んだ。
町の外にあったゼウスの神殿に仕える司祭が、家の門の
所まで、牛数頭と花輪を運んできて、
民衆と一緒にあって、いけにえを献げて、
祈ろうとした。(使 14：12、13)

**35. 合唱
異邦人たち**
「わたしたちにお恵みを、いと貴き神々よ、
わたしのいけにえに目をお留めください！」

**36. レツィタティーフ、アリアとコラール
テノール**
使徒達はこれを聞くと自分の衣を裂いて
民衆の中に飛び込んで、叫んで言った。(使 14：14)

バス (パウロ)
「皆さん、なぜこんなことをするのですか？
わたしたちも、あなたがたと同じく死にゆく人間にすぎま
せん。わたしたちが福音を告げ知らせているのは、
あなたがたが、このような偶像から離れて、
生ける神へと立ち帰るためなのです、
天と地と海を創られた方へと。

預言者はこう言っています。

『あなたがたの偶像はすべて欺瞞であり、
空虚なものであって、全く命が無い。
裁きの時がくれば、滅びてしまう。
神は人の手で造られた神殿にはお住みにならない。』

あなたがたは、知らないのですか？
自分が神の神殿であり、
神の霊が自分たちの内に住んでいることを。
神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされるで
しょう。神の神殿は聖なるものだからです。
あなたがたはその神殿なのです。

そして、(同時に) わたしたちの神は天にいまし、
御旨のままにすべてを行われるのです。」

合唱
そして、(同時に) わたしたちの神は天にいまし、
御旨のままにすべてを行われるのです。」

コラール
わたしたちは皆、唯一の神を信じます。
天と地の創造主であり、
わたしたちがその子となるように、
自ら父となられた方を。
(使 14：15／エレミア 10：14～15／コリ 3：16、17／詩 115：3)

**37. レツィタティーフ
ソプラノ**
すると、彼らに対して民衆たちは憤激し、
ユダヤ人たちと異邦人たちが一緒になって乱暴を働き、
怒り狂って彼らに叫んだ。(使 14：2、5)

**38. 合唱
ユダヤ人たちと異邦人たち**
「ここは主の神殿だ！
イスラエルの人たち、手伝ってくれ！
この男は、至るところで、
だれにでも教えている。
この民に逆らい、
律法に逆らい、
この神聖な場所に逆らって教えている！

彼を石で打ち殺せ！」(エレミア 7：4／使 21：28)

**39. レツィタティーフ
ソプラノ**
そして彼らは、パウロを行く先々で迫害した。
しかし主は彼のそばにいて、力づけていらした。
彼を通して福音が伝えられ、すべての異邦人がそれを
聞くようになるためであった。(使 21：36／2テモテ 4：17)

**40. カヴァティーネ
テノール**
死に至るまでは忠実であれ。
そうすれば、あなたに命の冠を授けよう！
怖れるな、わたしはあなたのそばにいる！
死に至るまで誠実であれ！(黙 2：10／ヨシュア 1：9)

**41. レツィタティーフ
ソプラノ**
パウロは使いを送って、エフェソから、教会の長老たちを
呼び寄せて、彼らに言った。(使 20：17)

バス (パウロ)
「あなたがたはよくご存じでしょう、わたしがあなた

と共にいてもどのように過ごしてきたかを。
わたしはまったく謙虚に、多くの涙を流しながら主に仕え
て、わたしたちの主であるイエス・キリストへの信仰を証し
てきたのです。
そして今、見てください、わたしは“霊”に促されてエルサレ
ムへと行きます。そこでは苦難と投獄がわたしを待ち受け
ています。あなたがたがわたしの顔を見る事はもう二度と
無いでしょう。」
ソプラノ
彼らは泣いて言った。(使 20：17～19、21～23、25、37)

**42. 四重唱、合唱とレツィタティーフ
教会の人々**
「どうか自分を大事にしてください！
そんな事があってはいけません！」(マタイ 16：22)

バス (パウロ)
「どうしようというのですか？
泣いたり、わたしの心をくじこうとするとは。
わたしは覚悟しているのです、
エルサレムで縛られることばかりか、死ぬ事さえも、
主イエスの名のためならば。」(使 21：13)

テノール
そしてパウロはそう言ってから、
ひざまずいて皆と共に祈った。
人々は彼を船まで見送り、
そして二度と彼の顔を見ることは無かった。
(使 20：36、38)

43. 合唱
御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、
思いなさい。
それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどなのです。
(1ヨハネ 3：1)

**44. レツィタティーフ
ソプラノ**
たとえわたしたちの信仰のため、
いけにえとして献げられるとしても、
彼は立派に戦い抜きました。
彼は決められた道すじを走りとおし、
信仰を守り抜きました。
今や、義の栄冠を受けるばかりです。
その日には、正しい審判者である主が、
それを授けてくださるのです。(2テモテ 4：6～8)

45. 合唱
しかし、彼だけにでなく、
誰でも授けてくださるのです、
主が来られるのをひたすら待ち望む人には。
主はわたしたちを想い、祝福してくださいます。
主を讃えよ！

主を讃えよ、わたしの魂よ、
主を讃えよ、わたしの内にあるものよ、
その聖なる御名を讃えよ！
その御使いたちよ、主を讃えよ！
(2テモテ 4：8／詩 115：12、103：1、20)

(日本聖書教会「聖書 新共同訳」を参照し、一部引用を
含みつつ、訳したものである。 杉村 俊哉)

◆東京合唱団演奏会出演者

合唱：東京合唱団・学習院 OB 混声合唱団 指揮者：前田 幸康									
ソプラノ		アルト		テノール		バス			
牛津佐和子		板倉由美子		青田 正平		青木 修三		山中 清孝	
大塚恵美子		稲垣 知子		上野 紘機		安彦 克己		山根 明	
萩野 直美		小笠原みどり		上島 敏		荒川 昌夫			
奥田 秀子		梶原 典子		川内 崇與		池上 陽			
亀山 澄美		川内 哉子		神林 紘一		小川 尚夫			
川合 久美		佐々木紀代子		岸 柗文		奥田 治仁			
小池 直子		佐藤 京子		塩谷 隆英		葛西 英一			
坂井田廣子		滝来 佐穂		富松 太基		近藤 安雄			
佐藤 悠子		永澤麻衣子		宮本 昭彦		杉村 俊哉			
竹田 貴子		花形 由美		吉岡 端也		津守 滋			
田村 典子		松田 和子				沼田 盛也			
長 恭子		三井 匡子				山岡 成行			
平澤 智子		山崎亜由未				山口 和			
山田 久子									

◆児童合唱団ムーサ

指導：坂井田廣子 伴奏：松本 智恵									
安藤 萌 ・ 伊尻 健音 ・ 梅原 夢杏 ・ 梅原 流花 ・ 越智 亮介 ・ 越智 菜月 ・									
金沢 歩美 ・ 金沢 拓輝 ・ 亀山ゆうあ ・ 谷 香奈 ・ 谷本 智聡 ・ 谷本 深優 ・									
長岐 理花 ・ 盆子原静流 ・ 盆子原武尊 ・ 緑川くるみ ・ 緑川 智也 ・ 宮内 晴菜 ・									
宮内 萌絵 ・ 宮内 駿兵 ・ 柳 茉里 ・ 柳 里咲 ・ 山口 真由 ・ 山口 淳平 ・									
山本みなみ ・ 山本 優子 ・ 渡辺 紗英 ・ 渡辺 里菜									

◆KMG 管弦楽団

第1ヴァイオリン		第2ヴァイオリン		ヴィオラ		チェロ		コントラバス	
◎ヤツェック・クリムキュヴィツチ		清水	醍輝	河合	訓子	羽川	真介	桜井	茂
磯崎	陽一	船山	嘉秋	泉	恵子	羽川	恵子	長竿由紀子	
徳井	えま	廣川	抄子	原口	朝子	寺井	創		
萩野	照子	佐藤	明美	宇佐美	久恵	井崎	瑛恵		
天日	倫代	河村	知里						
松岡	典子								
フルート		オーボエ		クラリネット		ファゴット		ホルン	
山田恵美子		小畑	善昭	恩智	聡子	前田	信吉	南	博之
富田	朗子	是澤	悠	元木	瑞香	浅見	千春	伊勢	久視
						大塚	利崇	田邊	愛子
								元木	智子
トランペット		トロンボーン		ティンパニー		オルガン			
神代	脩	丸山	博之	藤本	隆文	草間美也子			
長尾	令子	上田	智美						
		山口	隼士						
◎はコンサートマスター									

●東京合唱団演奏歴

※印は本邦初演									
演奏年月日	演 奏 曲 目		独 唱 者		オーケストラ・指揮者		備 考		
1954.11.29	ヴェルディ	レクイエム	柴田喜代子 柴田 睦陸	川崎 静子 秋元雅一郎	東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団・鎌倉コールと合同		
1955.7.9	ベートーベン	交響曲第 9 番	柴田喜代子 柴田 睦陸	岡部多喜子 伊藤 亘行	東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団・鎌倉コールと合同		
1955.12.17	ブラームス	ドイツレクイエム	伊藤 京子 伊藤 亘行		東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団と合同		
1956.3.11	ベートーベン	交響曲第 9 番	伊藤 京子 柴田 睦陸	栗本 尊子 秋元雅一郎	東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団と合同		
1956.7.11	フォーレ	レクイエム	伊藤 京子 伊藤 亘行		東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団と合同		
1956.8.	ボロディン	ダッタン人の踊り			東京交響楽団 前田幸市郎		アサヒビール・コンサート 学習院合唱団と合同		
1957.4.3	メンデルスゾーン	オラトリオ「エリア」	三宅 春恵 木下 保	松内 和子 秋元雅一郎	東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団と合同		
1957.10.14	ベートーベン	交響曲第 9 番	柴田喜代子 柴田 睦陸	川崎 静子 伊藤 亘行	東京交響楽団 前田幸市郎		アサヒビール・コンサート 学習院合唱団と合同		
1957.11.24	ヘンデル	オラトリオ「メサイア」	大熊 文子 木下 保	松内 和子 大賀 典雄	東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団と合同		
1957.12.1	クリスマスキャロル他				東京交響楽団 前田幸市郎		産経クリスマスブ・キャンドルコンサート		
1958.5	ブラームス ブラームス	ネーニエ 運命の歌			東京交響楽団 前田幸市郎		第 54 回都民シンフォニー・コンサート		
1958.8.28	ベートーベン	交響曲第 9 番	毛利 純子 石井 昭彦	池田智恵子 大橋 国一	東京交響楽団 前田幸市郎		アサヒビール・コンサート 学習院合唱団と合同		
1958.12.28	＊ブルックナー	ミサ曲第 3 番「大ミサ」	奥田智恵子 木下 保	佐々木成子 秋元雅一郎	東京交響楽団 前田幸市郎				
1959.3.29	グノー	ミサ・ソレムニス(抜粋)	稲畑 絢子 灰谷栄一郎		オルガン：島田麗子 前田幸市郎				
1959.12.6	ベートーベン	ミサ・ソレムニス	柴田喜代子 木下 保	佐々木成子 秋元雅一郎	東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団と合同		
1959.12.25	ベートーベン	交響曲第 9 番	三宅 春江 柴田 睦陸	栗本 尊子 石津 憲一	東京交響楽団 N.マルコ		TBS TV 出演		
1960.5.19	ブラームス	アルト・ラブソディ	別所 恵子		東京交響楽団 前田幸市郎		第 70 回都民シンフォニー・コンサート		
1960.9.28	＊ブルックナー	ミサ曲第 2 番			東京交響楽団 前田幸市郎		宗教音楽研究会合唱団とジョイント		
1960.12.10	ヴェルディ	レクイエム	毛利 純子 柴田 睦陸	川崎 静子 秋元雅一郎	東京交響楽団 A.ヤンソンス		東京交響楽団特別演奏会		
1961.12.21	ブラームス	ドイツレクイエム	伊藤 京子 伊藤 亘行	中山 第一	東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団と合同		
1962.6	フォーレ	レクイエム	長 恭子 中村 俊一		オルガン：松本和子 前田幸市郎				
1962.12.4 1962.12.5	ベートーベン	交響曲第 9 番	伊藤 京子 森 敏孝	戸田 敏子 中山 第一	東京交響楽団 A.パウルミュラー		東京交響楽団定期及び特別演奏会		
1962.12.23	＊ブルックナー	ミサ曲第 1 番	瀬山 詠子 楠瀬 一途	中村 浩子 芳野 靖夫	東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団と合同		
1963.12.22	ベートーベン	ミサ・ソレムニス	土屋 可愛 中村 博之	野崎 幸子 秋元雅一郎	東京交響楽団 前田幸市郎		東京合唱団創立 10 周年記念 学習院合唱団と合同		
1964.12.20	シューベルト	ミサ曲第 5 番	真島 美弥 下野 昇	北村 幸子 池田 明良	東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団と合同		
1965.5.31	中田喜直童謡集(混声)指揮：楠瀬一途 清水脩 毛銭の三つの詩(男声) クレッチェル イタリーのスケッチ(女声) 宗教歌曲集(男声) ロッシーニ 信仰・愛・希望(女声) ブラームス 哀悼歌、運命の女神の歌(混声)				ピアノ：石川治子 長 恭子 前田幸市郎		第 1 回東京合唱団コンサート		
1965.12.19	＊ドヴォルザーク	レクイエム	嵐野 もと 田原祥一郎	安居史恵子 持田 篤	東京交響楽団 前田幸市郎		学習院合唱団と合同		
1966.5.16	信時潔作品集(混声) シューベルト ドイツミサ曲(男声) ブーランク 聖母マリアへの連祷他(女声) スコットランド民謡集(混声)				オルガン：島田麗子 ピアノ：石川 治子 前田幸市郎		第 2 回東京合唱団コンサート		
1966.6.9	モーツァルト	レクイエム	伊藤 京子 村地 健	中村 浩子 芳野 靖夫	東京交響楽団 A.ヤンソンス		東京交響楽団定演		
1966.12.4	フォーレ ＊シヤルバンティエ	レクイエム	嵐野 もと 真夜中のミサ曲 河瀬 柳史	西山早智恵	東京交響楽団 矢野 恵子 芳野 靖夫 前田幸市郎		学習院合唱団と合同 オルガン：島田麗子		
1967.4.3	ベートーベン	交響曲第 9 番	伊藤 京子 藤沼 昭彦	長野羊奈子 高橋 修一	東京交響楽団 秋山 和慶		東京交響楽団定演(再建 3 周年記念)		
1967.6.28	パッハ	カンタータ第 6, 第 131, 第 182 番 モテット第 3 番	市丸 蒼生 板橋 勝		リディア室内合奏団 前田幸市郎 オルガン：島田麗子		第 3 回東京合唱団コンサート		

●東京合唱団演奏歴

※印は本邦初演

演奏年月日	演 奏 曲 目	独 唱 者	オーケストラ・指揮者	備 考
1967.8.	バッハ カンタータ第 182 番 モテット第 3 番		オルガン：植田義子 前田幸市郎 ピアノ：長基子	岡谷せせらぎ合唱団・オリンパス光学合唱団とジョイント
1967.11.28	※M. デュルフレ レクイエム	中村 浩子 芳野 靖夫	ABC 交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1968.5.20	ブルックナー コラール・ミサ他 ブルックナー モテット 5 曲 バッハ カンタータ第 80 番	安田 祥子 市丸 蒼生 板橋 勝 築地利三郎	オルガン：島田麗子 前田幸市郎	第 4 回東京合唱団コンサート
1968.12.3 1968.12.5	ヘンデル オラトリオ「メサイア」	井崎 洋子 斉藤恵美子 成田絵智子 栗林 義信 鈴木 寛一 梅原秀次郎	東京フィルハーモニー交響楽団 オルガン：島田麗子 前田幸市郎	藤原歌劇団創立 35 周年記念公演 学習院合唱団・藤原歌劇団合唱部と合同
1968.12.9.	ベートーベン 交響曲第 9 番	小池 容子 安居史恵子 砂川 稔 蔵田 裕行	東京交響楽団 ツデネク・コシユラー	東京交響楽団定演
1969.9.1	ブラームス ドイツレクイエム	中沢 桂 原田 茂生	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	日本フィルハーモニー交響楽団特別演奏会 東京合唱団創立 15 周年記念
1969.12.5	ヴェルディ レクイエム	山口 和子 成田絵智子 J. ザンビエリ 田島 好一	東京フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱・藤原歌劇団合唱部と合同
1970.6.17	マーラー 交響曲第 8 番	大川 隆子 佐野 順子 中村 邦子 春日 成子 井原 直子 金谷 良三 吉江 忠男 佐藤征一郎	日本フィルハーモニー交響楽団 小沢 征爾	日本フィルハーモニー交響楽団第 203 回定演出演 プロ合唱団連合 他共演
1971.9.25	バッハ カンタータ第 131,140,182 番	中村 邦子 菊池 洋子 藤沼 昭彦 芳野 靖夫	ローリエ管弦楽団 前田幸市郎	
1971.12.15	ハイドン オラトリオ「四季」	中村 邦子 藤沼 昭彦 平野 忠彦	ローリエ管弦楽団 前田幸市郎	
1972.10.27	フォーレ レクイエム ※ グノー 聖セシリアの為のミサ・ソレムニス	中山早智恵 篠崎 義昭 芳野 靖夫	神奈川フィルハーモニー管弦楽団 前田幸市郎	
1973.10.9	※ リスト グランのパジリカ落成の為のミサ・ソレムニス	蘇我 栄子 石光佐千子 鈴木 寛一 芳野 靖夫	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	
1973.12.20	※ ベーム カンタータ第 1, 第 6, 第 7, 第 10 番	沢田 祥子 末 芳枝 宮下 正 持田 篤	巖本真理弦楽四重奏団他 前田幸市郎 オルガン：島田麗子	東京合唱団教会コンサート
1974.10.18	バッハ マタイ受難曲	曾我 栄子 菊池 洋子 藤沼 昭彦 持田 篤 高橋 修一	東京ソリストン 前田幸市郎	東京合唱団創立 20 周年記念 グロリア少年合唱団と合同
1975.5.23	ブルックナー コラール・ミサ ブルックナー モテット 8 曲		巖本真理弦楽四重奏団他 前田幸市郎 オルガン：島田麗子	東京合唱団教会コンサート
1975.12.10	バッハ ミサ曲口短調	中沢 桂 石光佐千子 藤沼 昭彦 高橋 修一	東京ソリストン 前田幸市郎	
1976.6.4	バッハ モテット第 2, 第 5, 第 6 番 ブラームス モテット作品 29, 作品 74		オルガン：植田義子 前田幸市郎	東京合唱団教会コンサート グロリア少年合唱団と合同
1976.11.22	バッハ ヨハネ受難曲	加藤 綾子 菊池 洋子 藤沼 昭彦 持田 篤 高橋 修一	東京ソリストン 前田幸市郎 オルガン：島田麗子 チェンバロ：及川	
1977.5.24	バッハ モテット第 3 番 ブルックナー ミサ曲第 2 番		金石幸夫プラスアンサンプル 前田幸市郎	東京合唱団教会コンサート
1977.10.21	モーツァルト レクイエム	市川 倫子 菊池 洋子 鈴木 寛一 芳野 靖夫	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	
1977.12.21	ベートーベン 交響曲第 9 番	常森 寿子 春日 成子 水沢 三郎 岡村 喬生	日本フィルハーモニー交響楽団 エルヴィン・ルカーチ	日本フィルハーモニー交響楽団定演出演
1978.6.15	ブルックナー ミサ曲第 3 番「大ミサ」	中沢 桂 菊池 洋子 鈴木 寛一 芳野 靖夫	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	
1978.12.5	バッハ モテット第 1 番 G. ガブリエリ 「サクレ・シンフォニー」より		金石幸夫プラスアンサンプル 前田幸市郎	東京合唱団教会コンサート
1979.6.6	バッハ カンタータ第 4, 第 147 番 G. ガブリエリ 「サクレ・シンフォニー」より	松井 洋子 郡 愛子 牧川 修 高橋 啓三	リディア室内合唱団 前田幸市郎	
1979.12.12	フォーレ レクイエム コダーイ ミサ・プレヴィス	田中 順子 田口 孝子 豊田喜代美 宗 孝夫 佐伯久美子 有川 文雄	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	
1979.12	コダーイ ミサ・プレヴィス クリスマス・コラール集より		オルガン：植田義子 前田幸市郎	ICU クリスマスコンサート
1980.9.17	ブラームス ドイツ・レクイエム ブラームス アルト・ラプソディー	常森 寿子 菊池 洋子 芳野 靖夫	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	学習院 OB 合唱団、東京大学コール・アカデミーと共演
1980.11.24	ヘンデル オラトリオ「メサイア」	井崎 洋子 塩崎 朋子 吉田 博久 玉木 豊	東京ソリストン 前田幸市郎	
1981.9.17	ブルックナー ミサ曲第 2 番 ブレスコバルディ二重コーラスの為のミサ曲 デュルフレ グレゴリオ聖歌の主題による 4 つのモテット		オルガン：島田麗子 滝沢理子 前田幸市郎	東京合唱団第 40 回演奏会
1982.4.25	バッハ ヨハネ受難曲	永尾 和子 山岡 敦子 吉田 功 持田 篤 石黒 達朗	東京ソリストン オルガン：島田麗子 前田幸市郎	
1982.11.26	ハイドン 十字架上のキリストの最後の七つの言葉 ハイドン ミサ曲第 9 番（「ネルソン・ミサ」）	中沢 桂 山岡 敦子 阿部 純 宇佐見桂一	KMG 合奏団 前田幸市郎	ハイドン生誕 250 周年記念

●東京合唱団演奏歴

※印は本邦初演

演奏年月日	演 奏 曲 目	独 唱 者	オーケストラ・指揮者	備 考
1983.4.29	T.L. ヴィクトリア モテット ブルックナー ミサ曲第 2 番		金石幸夫プラスアンサンプル 前田幸市郎	
1983.12.11	モーツァルト レクイエム	永尾 和子 山岡 敦子 阿部 純 佐浦 国雄	東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 前田幸市郎	ゴールドデンコンサート
1984.7.8	モーツァルト ミサ曲ハ短調	常森 寿子 浅田 啓子 佐々木正利 真田 直規	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	合唱団「たかね」と合同
1984.10.26	ブルックナー モテット フォーレ レクイエム	加藤 綾子 宇佐見桂一	オルガン：佐藤みさ子 前田幸市郎	チャリティコンサート
1985.4.21	バッハ カンタータ第 66, 第 67, 第 104, 第 134 番	菊池 洋子 佐々木正利 宇佐見桂一	KMG 管弦楽団 前田幸市郎	J.S. バッハ生誕 300 年記念
1985.11.22	バッハ モテット第 227, 第 230 番 カンタータ第 4, 第 56 番	小池 哲郎	オルガン：植田義子 前田幸市郎	
1986.11.14	バッハ ヨハネ受難曲	常森 寿子 磯野 啓子 佐々木正利 宮下 正 小池 哲郎 宇佐見桂一 オケ中オルガン：池田泉 チェンバロ：伊澤長俊	KMG 管弦楽団 前田幸市郎 通奏低音：前田幸康	東京合唱団第 46 回定期演奏会
1987.10.14	ブラームス 六つの歌曲とロマンス 三つの歌、愛の歌、二つのモテット		ピアノ：小沢さち 須江太郎 前田幸市郎	
1988.4.23	バッハ カンタータ第 11 番 バッハ 復活祭オラトリオ バッハ 昇天祭オラトリオ	常森 寿子 菊池 洋子 小松 英典 西垣 俊朗	KMG 管弦楽団 前田幸市郎	
1997.8.30	バッハ ヨハネ受難曲	柳沢 亜紀 保多 由子 三山 洋賜 小原 浄二 久住庄一郎 水野 賢司	KMG 管弦楽団 前田幸康	
1998.8.30	バッハ カンタータ第 131 番 モーツァルト フルートとハープの為の協奏曲 フォーレ レクイエム	高橋 節子 大島 博 加賀 清孝	KMG 管弦楽団 天田 達（フルート） 三宅美子（ハープ） 前田幸康	
1999.9.4	藤原義久 北からの挽歌 － MAEDA のテーマと東北地方のわらべ唄による－ ハイドン チェロ協奏曲ニ長調 モーツァルト ミサ曲ハ短調	李 恩球 横山 恵子 浅見 順一 水野 賢司	KMG 管弦楽団 クリストフル・ヘンケル（チェロ） 前田幸康	
2000.9.10	バッハ カンタータ第 68 番 モーツァルト ファゴット協奏曲変ロ短調 モーツァルト レクイエム	五十嵐郁子 寺谷千枝子 大島 博 太田 直樹	東京ニューシティ管弦楽団 草間美也子（オルガン） 前田信吉（ファゴット） 前田幸康	学習院 OB 混声合唱団共演
2001.9.2	グノー 第 2 ミサ曲（男声合唱） （オーケストラ版編曲：番場俊之） ブラームス ドイツレクイエム	平松 英子 加賀 清孝	東京ニューシティ管弦楽団 草間美也子（オルガン） 前田幸康	オーケストラ版世界初演 東京大学アカデミカコール 共演 学習院 OB 混声合唱団共演
2002.8.31	バッハ ミサ口短調	平松 英子 竹本 節子 大島 博 加賀 清孝	KMG 管弦楽団 草間美也子（オルガン） 前田幸康	学習院 OB 混声合唱団共演
2003.9.6	※ 番場俊之 ケルビーニ フォーレ 星の歌（合同演奏） レクイエム（男声合唱） レクイエム	園田真木子 鹿又 遼	KMG 管弦楽団 草間美也子（オルガン） 前田幸康	東京大学アカデミカコールとジョイント・コンサート 学習院 OB 混声合唱団共演
2004.9.11	ヘンデル オラトリオ「メサイア」	佐竹 由美 寺谷千枝子 大島 博 加賀 清孝	KMG 管弦楽団 草間美也子（オルガン） 前田幸康	学習院 OB 混声合唱団共演
2005.9.3	バッハ ヨハネ受難曲	橋本 美香 栗林 朋子 大島 博 小原 浄二 浦野 智之	KMG 管弦楽団 草間美也子（オルガン） 前田幸康	学習院 OB 混声合唱団共演
2006.9.3	モーツァルト 戴冠式ミサ曲 モーツァルト レクイエム モーツァルト アヴェ・ヴェルム・コルプス	平松 英子 永井 和子 大島 博 佐野 正一	KMG 管弦楽団 草間美也子（オルガン） 前田幸康	学習院 OB 混声合唱団共演
2007.9.1	ブラームス ドイツ・レクイエム ブラームス アルト・ラプソディ 番場俊之 アヴェ・マリア	平松 英子 寺谷千枝子 太田 直樹	KMG 管弦楽団 前田幸康	学習院 OB 混声合唱団共演

東京合唱団 次回演奏会のお知らせ

2009年9月13日（日）紀尾井ホール

前田幸市郎 没後20年メモリアル

東京合唱団・東京大学アカデミカコール演奏会

ケルビーニ・レクイエム(男声合唱)

フォーレ・レクイエム

シューベルト・ミサ曲第2番

ご一緒に歌いませんか。団員を募集しております。 ご連絡は 042-421-7242 坂井田まで。